

第71回 朝活かみいち メモ

日時 : 17年6月29日木曜、7:00-8:00
場所 : M's cloud(上市町文化研修センター1階)
テーマ : 地域共生社会実現のための

上市町の福祉計画とは

進行役 : 柘田諧三氏(上市蕎麦打ち道場)

参加者 : 17人(町内9人、初参加0人)

コメント : 柘田さんの話について、あくまでも編者の受け止めとして記録を作りました。一言一句の記録ではなく、編者の記憶をもとに編者流の構成と記述になっております。内容の不正確さやエピソードの違いはご容赦の程お願いします。

◆ はじめに

進行役から上市の良いところを述べ合うことから始まりました。以下に各人の思いを列挙します。

- ・眼目が大好き
- ・静けさ、自然がいい、他と違う。
- ・歴史あり。中心に機能が集まり、住みやすい
- ・認知症用施設もあり、景色もいい。高校横の橋からの景色は抜群。
- ・山菜取りでいつも伊折に行く、伊折橋からの展望がいい。花の家の景色もいい。
- ・景色がいい。
- ・水がきれい。
- ・芸術に触れるチャンスが多い。
- ・コンパクトな町、顔が見える町
- ・町民のまじめさやあたたかい人柄がいい。
- ・新しいものよりも古いものや今あるものを守っていく風潮がいい。
- ・大岩がいい。
- ・市街地の景色が整っている。各家が気を配って周りの景色を作り、それが街全体の景色を作っている。

◆ 話題提供

上市の人はもちろんのこと上市が好きな町外の方にも、上市の福祉関係者が頑張っていること、上市は元気な町であることを知っていただきたく、今日は話をしにきました、旨をのべられました。

具体的にお話をされました項目は以下の通りです。上市町における福祉の現状として、人口、世帯、高齢者、若者の移住定住、介護、等。

<1>人口、世帯数

1980年代頃から急速に少子高齢化が進んでいます。高齢者の人口比については、全国や富山県よりも上市のほうが大きな数値となっています。

世帯数については、今は一世帯2.8人です。老夫婦

(2人)や一人高齢者(1人)のみの世帯もあります。

<2>人口問題改善策

(何処の市町村も同じであります)改善策として若者世代の定住移住を増やして出生数を向上させる政策施策を進めています。その対策の骨子は以下の三項目です。

- ・働き場所確保
- ・安価な生活居住(安心安全も)
- ・子ども支援体制

具体的な施策について:第一の働き場所確保は関係機関で頑張ってもらってここにすることで触れませんが、第二の安価な住宅の提供として町営住宅建設が進められています。

第三の子ども支援については、教育の問題はもちろんですが、障害者サポートもあります。これについて発達障害の問題を少し述べます。

発達障害については、遺伝的には発症率は15%という。今も昔ももちろん変わらないのかかわらず、今ことさら問題となるのは二次障害が最近すぎましいことにあるのでしょうか。少なくとも、二次障害について対策が必要といえます。とのことでした。

<3>医療・介護

(1)医療については、小児対象では総合病院には二名の女医さんが頑張っています。

(2)障害関係では、(身体)障害、知的障害、高齢の三つの施設を持っています。

- ・ワークハウスつるぎ(身体障害)
- ・むつもの里(精神障害)
- ・よつばえん(知的障害対象)

(3)上記のことは他の町には見られないことです。こんな良い町は他にないでしょう。障害者・高齢者から子どもまで子どもを大切にしています。これは町にとってピーアールできます。お互いに生きていく温かな町、それが上市ですので。というように言っておられました。

<4>介護

(1)介護保険について

趣旨は自分では使わなくて人に与えること。高齢者は戦争時代を生き抜き、今頑張っている。こうした頑張りを後世に伝えたい、ものごとのことです。

(2)介護予防

介護予防に資金を使い介護費用の軽減を図ることが先決でしょう。この考えで、各地域でのシニアエクササイズやおたっしやけの取り組みがあります。これはもちろんボランティアによって支えられています。今現在、ボランティアは男性3人、女性8-9人です。

<5>取り組み評価

福祉のとりくみを町自身が評価し関連の報告書に盛り込んでいます。町始まって以来の画期的なことです。ここに、当該報告書のp9の7-11行の記載を紹介します。

「要介護認定率は・・・富山県、全国と比較するとやや低くなっている。これは、地域包括支援センターを中心に社会福祉協議会やボランティア団体の協力の下で行っている介護予防事業の効果によるものと思われる。」

<6>障害の二次障害防止

子どもの時から障害が正しく理解されるべきとして、障害者と子どもとがウキウキを眼目寺にて一緒に楽しんでおります。そのときの子どものレポートには「(障害者も)人間であることがわかりました」とか、障害者の方からは「子どもたちが温かな人です」の声が寄せられました。こうした心温まる子ども作文を町報に掲載していただきました。

こんな地道な活動を10年ちかく続けておりますので、県も町を評価して欲しいものです。

<7>福祉活動

福祉推進について、以前は役場がやるものと位置づけられてはいたが、実際には地域にかかわるものであるので、官民ともにといったスタイルをとっています。最近では、役場のかかわりが少しずつ減り、代わりに地域のかかわりが増えてきています。

これには、安上がりの福祉にならないようにするとともに、役場の担当者の関わり年数も気になるところです。数年で代わっていくのも困るけれども、10年も長くやられてマンネリとなっても困ります。

最近、町民アンケートからも、福祉は地域でも面倒を見ること、といった認識が目立ってきたといえますので、福祉への認識もいい方向に変わってきていることは特筆すべきことなのでしょう。

最後に一言、一人の人が多くを語るよりも沢山の人が主張すべし。この姿勢も大事です。といっておりました。

◆ 討議

参加者と進行役との質疑応答ラリーがありました。進行役の補足説明も含めて項目を列挙します。発言ルビはかなり圧縮をかけて短文にしています。

- ・介護も地域格差があり、凹な地域では介護が受けられないこともあります。凹な地域の底上げが必要です。
- ・高齢者と障害者の格差もあり。障害者は関連施設での対応、高齢者は役場での対応。格差があります。解消すべしです。

・規則は変えていくべき。規則制定の時に想定外であっても、不具合と判断されれば即変えるべきです。

・年寄りがいることが良くないことのように思われがちですが、元気な町であれば、シルバーも元気であり、そんな街に皆さんが住むのです。これほどいいことはないのではないのでは。

・今をつくるのではなく未来をつくるべし。それが街づくりです。

・介護に携わる方々が少なくなっている(後継者不足)
・上市高校に福祉コースがある。ここから福祉大学に進学して卒業後に郷里に戻り頑張る人も増えていると聞いています。これをもっとアピールすべきです。

・大沢野工業高校に勤務の頃、ポットづくりを通して富山大学に推薦で多数入学させていただいた。そのときの方針は、こどもを夢中にさせること。人をその気にさせたら、人は変わるのである。教育とは、要はその気にさせることが何よりも大事です。

・人のために頑張るのが一番である。町が自分を育ててくれた。町に住んでいて良かったということを実感できるようにしたいものです。

◆ まとめ

進行役が力説されましたまとめについては、編者の受け止め方で記します。

上市では都市的な施設が中心部に集中し、かつ田舎の特質をいかに漂わせています。そんな町だからこそ、住んで良さを堪能し、住まいを楽しみたいものです。さすれば、移住定住も促進され、第一に町民が元気なというものです。といわれた後に続いて、よりこのことを実現させるために、福祉ボランティアで種々活動し頑張っています。とのことでした。

柘田さん、参加者の皆さん、薄田さん、ありがとうございました。

